

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 27 日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370424

研究課題名(和文) 平板型アクセント動詞否定形の非平板化に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study on accents of verb negative forms with level accent in the Tokyo dialect--Do young people use level accent in verb negative forms?

研究代表者

御園生 保子 (Misono, Yasuko)

東京農工大学・国際センター・教授

研究者番号：00209777

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：東京方言の平板型アクセント動詞否定形アクセントを調査した。東京区部生育の東京方言話者54名(1920年～1995年生まれ)を対象に起伏型アクセント動詞4語・平板型アクセント動詞4語、各31の例文を読んでもらったところ、平板型アクセント動詞否定形文末言い切りのアクセントに年齢差が見られた。戦前生まれの話者は平板型使用率に個人差があるが、戦後生まれとくに1967年以降に生まれた話者は全員が90%以上平板型を使う。「地元度」という指標を用いて話者の属性を数値化し否定形アクセントとの相関を見ると、地元度の高い人のほうが平板型を使う割合が高いという緩い相関があった。

研究成果の概要(英文)：Accents of verb negative forms in the Tokyo dialect were studied. Four verbs which have level accent and four verbs which have falling accent were selected. 31 sentences were prepared for each one of the verbs. Native speakers of the Tokyo dialect born from 1920-1995 were asked to read these sentences. Differences by age were found in the accents of verb negative forms with level accents in the sentence final position. The speakers who were born before the WWII showed individual differences in the ratio of level accent of verb negative forms. The speakers who were born after 1945 did not show much individual differences. Especially those who were born after 1967 used level accent more than 90 percent of the verb negative forms in the sentence final position. The "regionality"(Chambers 2002) index shows a mild tendency that the speakers who have higher regionality scores use the level accent more in the verb negative forms of sentence final position.

研究分野：言語学・音声学

 キーワード：東京方言 動詞否定形 平板型アクセント 起伏型アクセント アクセント型の対応 年齢による差
 地元度 共通語化

1. 研究開始当初の背景

日本語の否定では、動詞の否定ナイは助動詞、形容詞、名詞の否定ナイは形容詞とされ品詞が異なる。東京方言では形容詞・名詞の否定形のアクセントは必ずナ↓イ、動詞の否定形の場合、動詞アクセントが起伏型であれば否定形も起伏型、動詞アクセントが平板型であれば否定形も平板型と動詞のアクセント型によって対応があるとされ、品詞分類の根拠にもなっている。一方で東京方言では従来起伏型だった名詞アクセントが平板型に、従来平板型だった動詞アクセントが起伏型になるという変化の動向がある。

2. 研究の目的

従来言われている「平板型動詞否定形のアクセントは平板型」という対応が現在もあるかどうかを明らかにする。

3. 研究の方法

幅広い年齢層の東京方言話者に調査票を用いた面接調査をした。戦前生まれの話者は戦争前に言語習得期を過ごしている旧東京15区生育の話者を中心に、戦後生まれの話者は両親の少なくとも一方が東京23区生育で自身が東京23区生育の話者をお願いした。1920年から1995年に生まれた東京2世と3世計54名の話者からお話を伺うことができた。

調査票は以下の要領で作成した。親密度が高い平板型動詞、起伏型動詞それぞれ2拍語2語、4拍語2語を選び調査語とした。平板型動詞は「着る、行く、教える、働く」起伏型動詞「見る、書く、覚える、手伝う」である。否定形+助詞助動詞、否定形句末、否定形文末の諸形式を網羅するように配慮して、1語につき31の例文を作った。

調査ではインフォーマントと面接してフェイスシート項目を聞き、それから調査票を読み上げてもらい、記録し、録音した。

4. 研究成果

(1) 起伏型動詞否定形は全語形で90%以上の話者が起伏型で答え、非常に安定している。それに対して平板型動詞否定形は14の語形で回答にばらつきが見られた。その中で動詞否定形文末言い切り9例のアクセントで年齢差が見られた。戦前生まれの人は文末言い切りで平板型・起伏型のどちらを使うかに個人差がみられるが、戦後生まれ、とくに1967年以降に生まれた話者では90%以上が平板型である(図1参照)。平板型動詞否定形の

平板化は1967年生まれ以降になって完成したといえる。

従来から平板型動詞否定形は平板型と記述されていたが、実態としては東京生え抜きの話者であっても戦前は起伏型を使う話者と平板型を使う話者があったが、高度成長期にその個人差がなくなった。

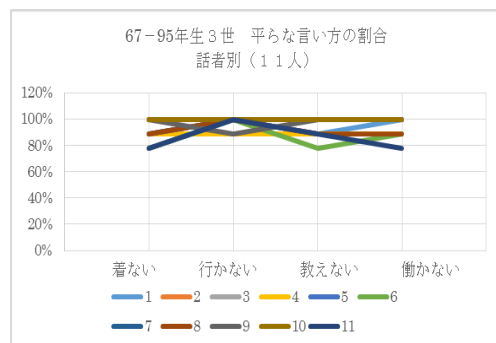
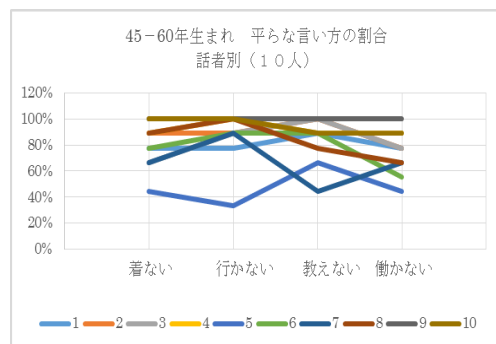
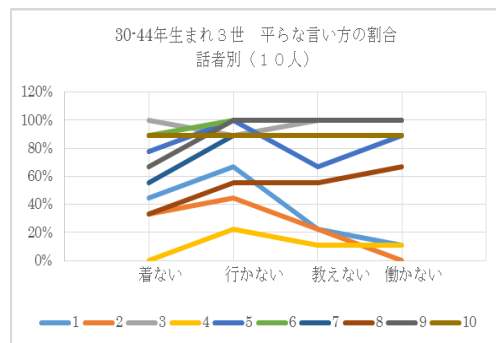
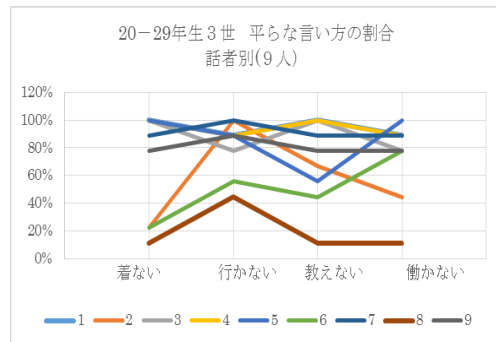


図1 3世年齢層別・話者別 文末で否定形9例を平らにいう割合

1967年以降に生まれた話者でとくに平板型が用いられていることにはテレビの普及が影響しているのではないかとみられる。

若い人たちは平板型動詞否定形に平板型を使わないのではないかとこの予測は正しくないことが明らかになった。

(2) 平板型動詞文末言い切りのアクセントと話者の属性の関係を見るためにChambersの regionality (Chambers 2002)の考えにならい、「地元度」という指数を考えた。本人の生育地、両親の生育地、祖父母の生育地、小学校が公立かどうかなどに試みに数値を与え、その合計を各話者の地元度とした。数値が小さいほうが地元度が大きい。インフォーマントの中には東京2世が14名、東京3世以上が40名あったが、2世の話者はすべて地元度が4以上、3世以上の話者は-2~4の間になる。地元度と平板型動詞否定形文末で平板型を使った割合の相関を見たのが図2である。

点1個が話者一人に対応する。縦軸が平板型使用率、横軸が地元度で、数値が小さいほど地元度が高い。平板型使用率が高い人は左上に固まっており、概して地元度が高い話者のほうが平板型使用率が高いという緩い相関があるように見える。家で地元のことばを使い、近所の友達と遊んで、地元の小学校に通ったほうが地元のことばを覚えやすいということだろう。

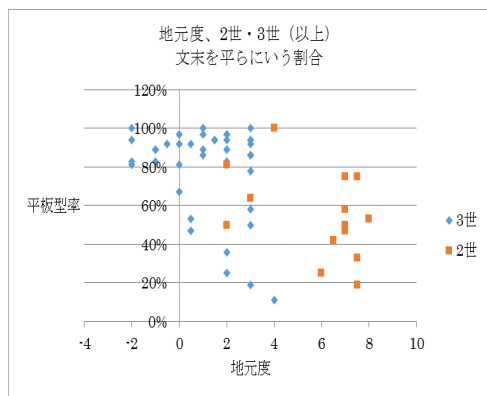


図2 地元度と文末で否定形を平らにいう割合

引用文献

金田一春彦監修、秋永一枝編『新明解アクセント辞典第2版』(2014)

Chambers, Jack (2002) "Regionality as an Independent Variable

Interlopers as Agents of Linguistic Change" §3 of "Dynamics of dialect convergence." Investigateing Change

and Variateion through Dialect

Contact., ed. Lesley Milroy. Special issue of Sociolinguistics

6(2002):117-130

<http://homes.chass.utoronto.ca/~chambers/regionalty.html>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

御園生保子「東京方言否定形アクセントにみられる年齢差」(第103回日本方言研究会研究発表会、2016年10月、山形県山形市片谷地東北文教大学)

御園生保子「生え抜き話者における東京方言動詞否定形のアクセント」(第101回日本方言研究会研究発表会、2015年10月、山口県山口市神田町パルトピアやまぐち山口大学)

御園生保子「高年齢生え抜き話者による東京方言動詞否定形のアクセント」(第99回日本方言研究会研究発表会、2014年10月、北海道札幌市北区北海道大学)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

リーフレット 御園生保子「東京のことばは変わった?」(2017) 調査協力者に結果を報告するためのリーフレット。調査協力者に配布。

6. 研究組織

(1)研究代表者

御園生 保子 (MISONO, Yasuko)
東京農工大学・国際センター・教授
研究者番号：00209777